

宮スタジアム跡地の再開発事業に伴って実施したものである。

調査の結果、古墳時代前期初頭及び中期の集落と生産域、奈良時代の井戸、平安時代の井戸、鎌倉時代から室町時代にかけての集落と条里型水田を検出した。

兵庫・高畑町遺跡

- 1 所在地 兵庫県西宮市高松町
- 2 調査期間 第五次調査 二〇〇六年(平18)四月～一月
- 3 発掘機関 高畑町遺跡第五次発掘調査団
- 4 調査担当者 永島暉臣・西村匡広
- 5 遺跡の種類 集落跡
- 6 遺跡の年代 古墳時代～中世
- 7 遺跡及び木簡出土遺構の概要

高畑町遺跡は、武庫川右岸の沖積地上に立地する遺跡である。今回の調査は、阪急電鉄西宮北口駅の南東四〇〇mに位置する阪急西

宮スタジアム跡地の再開発

事業に伴って実施したものである。

調査の結果、古墳時代前期初頭及び中期の集落と生産域、奈良時代の井戸、平安時代の井戸、鎌倉時代から室町時代にかけての集落と条里型水田を検出した。

木簡は、奈良時代の井戸四一七から一点出土した。井戸四一七は一辺三・五mの掘形内に、内法が一・二mを測る相欠き仕口組型の大型方形井戸枠を有する。井戸枠上部は抜き取られており、幅〇・〇七〜〇・二〇mの板が四段分遺存していた。井戸枠上面から井戸底までの深さは〇・六mを計測する。井戸の埋土は、井戸枠検出面まではこぶし大の礫を包含する砂礫層で、井戸枠上面から〇・五mまでは落下した木材や木屑を包含する有機質層である。木簡は、その下の有機物を含む砂質シルト層から出土した。同層からは、ほかに和同開珎一点、斎串三点、須恵器杯一点、土師器杯一点などが出土している。共伴した須恵器杯・土師器杯は、平城宮Ⅲの土器（七三〇〜七五〇）に相当し、井戸の年代もこの時期と考えられる。なお、木簡が出土した奈良時代の井戸と共存する時期の遺構は検出していない。

なお、今回の調査地の南側で実施された第二次調査において、墨書土器が出土している。器種は杯蓋と考えられ、墨痕がその外面に認められるが判読できない（兵庫県教育委員会『高畑町遺跡Ⅱ』（兵庫県文化財調査報告一八二、一九九九年））。

8 木簡の釈文・内容

(1)

•

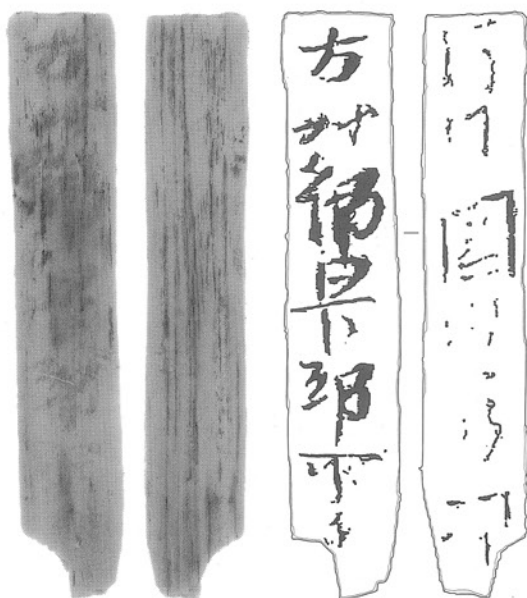
□	
□	
□	〔玉力〕
□	
□	〔郡力〕

「方□郷日下□□」^{〔部力〕}

(132) $\times 25 \times 3$ 019

なお釈読にあたっては、奈良文化財研究所史料研究室の方々のご教示を得た。

(永島暉臣・西村匡広)



木簡研究 第二六号

卷頭言―『全国木簡出土遺跡・報告書綜覧』刊行に寄せて― 小林昌二
二〇〇三年出土の木簡

概要 平城京跡左京

概要　平城京跡左京三条三坊十一坪　平城京跡右京北辺　平城京跡右

京四條二坊二坪 法華寺 旧大乗院庭園 藤原京跡 石祠遺跡 飛鳥寺
南方貴跡 鳥羽貴跡・鳥羽雅宮跡 東福寺常樂庵車裏 中世劔龍寺

城跡
難波宮跡(1)
難波宮跡(2)
大坂城跡
九頭神遺跡
奈良井遺跡

玉櫛遺跡 久宝寺遺跡 兵庫津遺跡 玉津田中遺跡 北村廃寺 有岡

城跡・伊丹郷町遺跡 明石城武家屋敷跡 対中遺跡 入佐川遺跡 清

洲城下町遺跡 大毛沖遺跡 土橋遺跡 北条泰時・時頼邸跡 永福寺
左方谷遺跡 水石審恵一家、石川屋敷跡 春日丁遺跡 第Ⅲ也

點) 旗本岩頼家屋敷跡(新取訪町遺跡) 竜泉寺町遺跡 台東区

No. 68
遺跡
馬場下町遺跡
元町二丁目遺跡
神明遺跡
北島遺跡
(第

一九地点) 松本城下町跡六九 松本城下町跡宮村町 樺崎寺跡 荒

田目条里制遺構 門田条里制跡 東高久遺跡 荒井猫田遺跡 河股城

跡 仙台城跡 (二の丸地区) 竹ノ内遺跡 市川橋遺跡 長徳寺前遺跡
古志田東貴赤 大王家貴赤 山形成赤 所谷地貴赤 龍門寺茶田

貴跡 觀音堂貴跡 新田(一)貴跡 聿怪氏成跡・弘前成跡 本町一丁

目遺跡 金石本町遺跡 桜町遺跡 石名田木舟遺跡 井口城跡 小杉

流通業務団地No.20遺跡 中名Ⅵ遺跡 任海宮田遺跡 願海寺城跡 水

橋金広・中馬場遺跡 小出城跡 下前川原遺跡 道端遺跡 青田遺跡

米子城跡 2 遺跡 米子城跡 才ノ峠遺跡 青木遺跡 鹿田遺跡 尾道
豐赤(古)七也点 周方国守亦 長門国分守亦 長門国守亦(宮)

道跡 (K) (七地点) 周防国府跡 長門国分寺跡 長門国府跡 (宮内地区) 徳島成下町跡 観音寺遺跡 敦也遺跡 高公成跡 1) (東

ノ丸地区) 高松城跡(2)(丸ノ内地区) 高松城跡(3)(松平大膳家中

屋敷跡) 雨窪遺跡群 小倉城跡 在自西ノ後遺跡 牟田口遺跡 炬

粕町遺跡(長崎奉行所立山役所跡) 北島北遺跡

一九七七年以前出土の木簡（二六）
平城宮跡 堀田柵跡

山田寺跡(第五・一二・二三号) 宮内黒田貴跡(第二号)

彌勒寺西遺跡（第二五号）
安芸国分寺跡（第二四号）

中央アジア出土のチベット語木簡―その特徴と再利用―

館野和己・武内紹人

木に託された暦―石神遺跡出土具注暦木簡をめぐって―
竹内 亮
桑原 祐子

書評 平川南著『古代地方木簡の研究』
鐘江宏之

新刊紹介 木簡学会編『日本古代木簡集成』
武田和哉

頒価 五五〇〇円 送料六〇〇円
